

アルプス国立公園指定 50 周年記念ロゴデザインシート

基本型 A（日本語）



B（日本語）



基本型 A（英語）



B（英語）



名刺用シール
(H=10mmでの使用推奨)



缶バッジ仕様（φ40）



基本型（モノクロ1）



横長 A（日本語）



横長 B（日本語）



横長 A（英語）



横長 B（英語）



横長（モノクロ1）



横長（モノクロ2）



南アルプスまるごと体験！スタンプラリーシート

南アルプス・カントリーコード — 登山者の皆様へのお願い —
Minami-alps Country Code



動植物を採らない、傷つけない
Do not damage flora and fauna.



登山道はずれない
Do not deviate the course.



ペットを連れ込まない
No pets allowed.



ストック先端にゴムキャップをつける
Put a crutch tip to your pole.



ゴミは必ず持ち帰る
Pack-it-out all your trashes.



岩などへの落書きはしない
Do not scribble on the rocks.



山小屋などの施設をきれいに利用する
Use the mountainlodge and other facilities cleanly.

南アルプス まるごと体験！



2014.06.01
南アルプス国立公園指定50周年

スタンプラリー

【南アルプス国立公園指定50周年記念事業実行委員会】

【スタンプラリー応募要項】

南アルプスの施設や50周年記念イベントを巡り、スタンプを6つ集めて応募すると、すてきな景品が抽選で当たります。

- **応募期間**
平成26年11月25日(火) 消印有効
- **応募方法**
はがきに、住所・連絡先(電話番号)・氏名を明記し、スタンプシートを貼って応募してください。
※応募されたスタンプシートは返却いたしません。
※発表は、景品の発送をもって換えさせていただきます。
- **応募先**
〒420-8602 静岡市役所静岡市葵区5-1 静岡市清流の都創造課
南アルプスまるごと体験 スタンプラリー係 宛て
- **詳しくは**⇒ <http://www.env.go.jp/park/minamialps/index.html>

記念式典トークイベント記録（長野イベント） 1/4

南アルプス国立公園指定 50 周年記念事業

記念式典トークイベント「南アルプスの未来について」

- ・開催日時 平成 26 年 5 月 24 日（土）15：45～16：45
- ・会場 長野県伊那文化会館 大ホール

出演者：

- ・市毛 良枝 氏（女優）
- ・白鳥 孝 氏（伊那市長）
- ・中村 仁 氏（環境省南アルプス自然保護官）

コーディネーター：神谷 有二 氏（山と溪谷社オンライン部長）

コーディネーターの進行により、自然保護等に関する普及啓発に資するディスカッション形式の講演を行った。主に触れたテーマは以下の通り。

【記念講演関連】

白鳥 市毛さんとお会いするのははじめてですが、70 リットルのザックを背負われるまで成長できたことは素晴らしいと思います。

神谷 自然を汚してはいけないという思いからラーメンのスープを飲み干すというお話がありました。中村さんは最近の山のマナーやルールについてはどう思いますか。

中村 マナーやルールは定着してきています。

神谷 市毛さんは登山をはじめて数年間で成長した様ですね。

市毛 一緒に行く方が一流なだけで、登山家と言われてしまっています。成長というより、ゴミをここに捨てれば、ここにずっとあるのだなと感じたりする、そういった事です。

【シカについて】

神谷 シカ対策は環境省と市も協力して実施しているのですか。

白鳥 7年くらい前から市で年間 4000 頭から 4500 頭を捕獲している。仙丈を歩いても花が咲いておらず、シカが食べてしまいゴルフ場みたいになっていた。環境省や県、林野などに大変なことになっていると言った。しかし、下界では具体策が出てこなかった。そこで山小屋で各者を集めて話をしたら、早くやろうと話がまとまり、その年には取り組みが始まった。

記念式典トークイベント記録（長野イベント）2/4

市毛 仙丈、北岳も花がないのですか。

白鳥 荒川岳にもない状況です。

市毛 あんな急斜面を登るなんて、シカはかわいいのにもものすごいですね。

中村 シカはかわいいけれども、南アルプスはボロボロの状態です。

市毛 恐ろしい話ですね。

【山のトイレについて】

神谷 シカ以外にも課題があります。山のトイレについては国の補助金が無くなったときにシンポジウムでも話題になりました。受益者負担という理由ですが、登山者が山を汚していると言われた思いでした。南アルプスではどんな対策をしていますか。

白鳥 中央と南アには伊那市の山小屋にトイレがあり、他は携帯トイレで対応しています。中でも蘆沢小屋の方は、へりは二酸化炭素を出すため、自分で担ぎ下ろしています。

中村 環境省での施設整備は難しい状況です。

市毛 私はトイレにはうるさいと思われています。塩見に登った際に白い花を目の当たりにしたのがきっかけですが、水洗には疑問があると言ってきており、水洗にした山小屋の方にあやまれるほどです。水洗にしたいといっている方には、まず水洗ならではの大変さを知って欲しいと思っています。

中村 水洗にすると、利用者はその後のことを考えなくなってしまいます。

市毛 バイオ式トイレでは電力が停止した場合にまわりに白い花が咲いていた経験もあります。便利さに頼りすぎるとこうなってしまうので、最低限自分のことは自分ですということを伝えたいです。

神谷 市営の山小屋もありますが、市の意識はいかがでしょうか。

白鳥 あなたは難しい質問をする方ですね。人命に関することは最重要課題として、それ以外についてはある程度のがまんが必要だと思います。一方で山小屋は情報を伝達する場でもあるので山小屋に立ち寄っての情報収集が大事です。

神谷 シャトルバスでの自然案内等があってもよいですね。中村さんの安全対策についてお

記念式典トークイベント記録（長野イベント） 3/4

考えがありますか。

中村 最近は道具が良くなり、気軽に山にアプローチできるようになっています。一方で準備にかかる時間が短縮されていることに危険を感じます。引き続き、普及啓発、ルールの周知が重要だと思っています。

【エコパーク、ジオパークについて】

神谷 南アルプスは国立公園が50周年だが、近年はジオパークや世界遺産、エコパークの話題もあります。何が違うのでしょうか。

中村 自然を保護しつつ、利活用していくという基本はどの制度も同じです。連携をとって南アルプスが1つになることが重要だと思っています。

神谷 市は、ジオパークについて積極的に取り組んでいますね。

白鳥 南アルプスは稜線を中心として山城全体に色々な切り口があっておもしろい。ジオ資源は構造線、地質だけでなく植物、昆虫の違いもあります。

神谷 エコパークはどうでしょうか。

中村 エコパークの核心地域は国立公園の特別地域が中心となっているが、その周辺は自然体験等ができる緩衝地域になっており、さらに移行地域もあります。

神谷 国立公園は山だけですが、エコパークは麓も入ってくるということですね。市毛さんはエコパークやジオパークについてご存じでしたか。

市毛 これまでエコパークやジオパークを意識して山を歩いたことはないです。両方ともカチカチなのでテーマパークができたように思われたくない。特に南アルプスには覚悟が必要だと思っており、そういう覚悟がなくなるのは嫌ですね。「竹沢長衛物語」というこの本では大正から南アルプスで小屋や登山道を作った長衛さんという方がいますが「山を傷めず、慣れて馴れない」という考えです。

白鳥 長衛のハートは自然そのものだと思います。全国的には知られていませんが自分の好きな所を女性や子どもに見せたいという考えを持っていました。ちなみに6月には南アルプス市の長衛小屋で長衛祭という開山祭もあります。

【山小屋について】

市毛 利用者に文句いわれたらNOといえないのが一般的なサービス業と思いますが、過去

記念式典トークイベント記録（長野イベント） 4/4

に山小屋の方に怒鳴られたことがありました。4月に2500mに登った際に、「アイゼン持っているかっ！」と。「持っています。」と答えると「だったらいい。」という感じでした。山小屋の方は偏屈で良く、それが山のルールだと思っています。

神谷 中村さんは、山小屋の方をどう思いますか。

中村 山が好きで、現場でがんばっている方々なので、仰ることは尊重しています。

神谷 市が山小屋を複数持っているのは珍しいですね。公営にもかかわらず地域に根ざしてやっていますね。

市毛 山を下りたらすぐ帰るのではなく、山での出来事について話しができる場所があって、地域を楽しむことができるとよいと思います。

【登山者について】

神谷 入山料の話もあります。今後登山者の役割も考える必要があると思いますがいかがでしょうか。

白鳥 登山は自己責任です。石があつてころんだから登山道がいけないということではではありません。また、保険を活用することや普段からトレーニングすることも大事です。登山道整備のあり方については山梨、静岡側とも一緒に、50周年を機会にまとめたいと思っています。中央アルプスではボランティアによる整備事例もありますので、利用者の力を貸して欲しいと思っています。

中村 登山道にはレベルがあつて良いし、登山道や安全確保はそれに応じた最小限の手入れが良いと思っています。そうすることで頑張った感動があるためです。ただ、維持管理をすることは重要なので、そのレベルや、やり方などについて、皆で考えられればと思います。もちろんボランティアによる手入れも良いと思います。

【まとめ】

神谷 最後に市長にまとめて欲しい。と振るように言われていますので、白鳥さんよろしくをお願いします。

白鳥 南アルプスは森林限界が高く山深い大変貴重な場所です。3県の関係自治体が協力して登山道整備、山のトイレ対策、シカ対策を進めていきたいと思っています。玄人だけの話ではなく登山、学習、保護の指導というものを、この50周年を機会に確実に実行していきたいと思っています。

以上

日本アルプスサミット記録（山梨イベント）1/18

南アルプス国立公園指定50周年記念事業クロージングイベント受け継ぎ歩む 南アルプスフェスタ2014

日本アルプスサミット 山が人を創る～登山の歴史を支えた人々～

- ・開催日時 平成26年10月4日（土）13:00～
- ・会場 櫛形生涯学習センター アヤメホール

パネラー：

- ・南アルプス 清水 准一 氏（NPO 法人芦安ファンクラブ、南アルプスガイドクラブ）
- ・南アルプス 上野 真一郎 氏（NPO 法人静岡山岳自然ガイド協会）
- ・北アルプス 穂苅 康治 氏（槍ヶ岳山荘主人・やまたみ）
- ・中央アルプス 羽場崎 功 氏（アルプスネイチャークラブ）
- ・山と溪谷社 神谷 有二 氏（Yamakei Online 部長）

コーディネーター：塩沢 久仙 氏（芦安山岳館 館長）

塩沢 皆さんこんにちは。本年は南アルプスが国立公園に指定され、ちょうど50年の節目の年にあたります。ちなみに北アルプスを要する中部山岳国立公園は80周年だと聞いております。元来国立公園といいますと「自然保護」のフィールドとして様々な問題が語られ活動が展開されてきましたが、実はもうひとつの柱である「国立公園の適正利用」の面で、人が山に関わってきた歴史や文化はあまり語られず、置き去りにされて来たように思われます。そこで今日は「日本アルプスサミット～山が人を創る～」と題しまして、山と人間との共生、人々がどんな暮らしをしてきたかということに視点を落として話を進めていきたいと思っております。

現在南北中央アルプスで、自然保護、山岳文化、山岳遭難防止、ガイド等受け入れ側として地元の第一線で活躍なさっている4人の皆様と、山に訪れる側として、山と溪谷社の神谷 Yamakei Online 部部長にコメンテーターとして参加いただいております。まず始めに、本日のパネラーの皆さんの自己紹介と、各山域の特徴や簡単な登山の歴史、それに現在行われている登山や山岳文化に受け入れ側の地元として活躍した人々やガイド（キーマン）の人物像を紹介していただき、それらが現在の登山や各々の活動にどの様に反映されているか、つまり先人たちや山がどの様にして人を創ってきたかを語っていただきます。

清水 私は山梨県南アルプス市の芦安という山の中で生まれ育ちました。山の中で山を生活の場所、遊びの場所としていました。子供の時からおじいさんの炭焼きの手伝いとか、薪ひろいとか、そんな生活をしてきました。芦安に案内人組合という組織があり特に芦安の大曾利というところではすごい集団がおりまして、たまたま私はそのすごい集団の中に産まれました。ですから、当時活躍された人々のことをうる覚えで覚えています。そんな中で育ちましたから、当然北岳にもはやくから足を向け、人を案内することとは

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 2/18

やくから行っていました。今年は南アルプス国立公園指定 50 周年ですが、私も北岳に足を踏み入れて 50 年です。夜叉神峠に長靴に縄をつけて案内をしてから 50 年です。しかし子供のころからずっと山をやっていたかというのではなく、社会人になってから静岡の人々に北岳のすばらしさを聞いたのです。そんな話を聞いたら故郷が無性に恋しくなり、山岳会の門を叩いたのです。若いころはバリエーション、冬山、岩登りなど「挑む」登山を行っていました。それまでは山に訪れる形の登山を行っていましたが、20 代後半に北岳山荘に勤めることになりました。そのことが今の私の活動につながっている一番の要因になっています。といいますのは、山に登って宿泊し、下山するのではなく山の中身が見えないのですけれども、小屋の管理をしているとまず水のこと、登山者のし尿のこと、ひいては遭難救助、そんなことまで全部裏方としてやっていくことになるのです。そんなことから現在でも山岳救助にも関わらせてもらっています。

その後、個人的に山登りは続けていましたが、約 16 年前に NPO 法人芦安ファンクラブができました。地元として南アルプスの自然保護などの活動を行いました。その後、南アルプスに念願のガイドクラブが立ち上がり、その会の会長をさせていただいています。この地域のすばらしい自然をガイドし、できるだけ多くの方に満足してもらおうという活動を行っていきたいと思っています。

この地域の山域の特色ですけれども、私の活動域は南アルプスの北部です。鋸、甲斐駒、鳳凰三山、仙丈ヶ岳、白根三山、前衛の楡形山などで活動していますが、南アルプス国立公園に指定されてから自然保護の手当てが厚くなり、北岳をはじめ高山のすばらしい植物が約 2～300 種あります。それらを個人的にも楽しませてもらいながら、活動しています。

上野 はじめまして。静岡山岳ガイド協会の上野と申します。登山歴は高校時代から始めて約 40 年あります。ガイドになって約 20 年経つのですが、南アルプスの南部は、北部と比べると非常に登山者の少ないエリアです。年間 8 千～1 万 2、3 千人といったところですが、今年は夏の天候が悪かったため、登山者数が約 20% 落ち込んだと聞いています。私の活動エリアは南アルプスの主脈部分、白根南陵、南アルプス深南部といったところですが、主脈以外のエリアはほとんど登山者がいなくて、登山道は整備されていない、山小屋はないというエリアです。ただ、私のお客様はほとんどが首都圏の方です。案内する山も静岡県以外にも山梨や長野県が主になっています。ガイド歴 20 年ですが、もともと山岳会という形で来ているので、様々な山を登ってきたおかげで北は八甲田山から南は伯耆大山まで登り、年間 250～280 日山にいるという生活をしていました。今は精力的に山に行くというわけにはいかないのですが、2 週間前は秋田県、山形県、那須、鳥海山という東北の名山に 1 週間ほど滞在していました。今週も新潟県の妙高、上越から南下し、長野県の霧ヶ峰あたりで落ち着いています。1 週間出っぱなしで家を忘れてしまうのではないかと流れ者の生活がガイドの生活かと思います。私は職業ガイドなので他の仕事は一切行っていません。よくある旅行会社のツアーガイドも受けていないので、ほとんど個人のお客様です。南アルプスエリアだと、整備されていない道のないと

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 3/18

ころが南アルプスらしいということで、深南部の大無間山、中の尾根山などの厳しい山に案内してほしいというお客様がいらっしゃいます。南アルプス南部の主脈は8千～1万人という登山者数ですので、ガイド登山というのでは活発な地域ではないんですね。私のエリア南アルプスの南部、静岡側の特徴としては登山者数が少ないということがあげられます。それから特種東海製紙さんの社有林が占めているということです。一部国有林もありますが、ほとんどが1社の社有林であるということも特徴的だと思います。もうひとつは高山植物群落、あるいはハイマツ群落、ライチョウの生息地の南限であるということです。こういったことが特徴だと思います。

穂苅 私は北アルプスの山小屋の3代目で、槍ヶ岳山荘、槍沢ロッジ、南岳小屋、大井川ヒュッテ、岳沢小屋の5軒の山小屋を経営しています。山小屋に入って25年経ったところです。この業界のことはわかっているようでわかっていません。山域の特徴としては、北アルプス南部地域は長野県の中でも最も事故の多い地域です。特に槍穂高縦走路、穂高から西穂高にかけてのあたりでは年間何十件という事故があります。それにもかかわらず多くの登山者が訪れ、数が減ることはありません。ある意味、登ってはいけない人たちが来てしまっているのかという面もあるのではないかと思います。実際、蝶ヶ岳、常念岳、燕岳という道もありますが、どの登山道でも山の中は雷のリスクや滑落のリスクがあります。

昨年、長野県山岳遭難防止対策協議会では滑落、転落、転倒事故の多い山域を「山岳ヘルメット着用奨励山域」に指定し、登山時のヘルメット着用の呼びかけとレンタル環境を整備しています。私どもの通信のNP0、ブロードバンドネットワーク、無線を山小屋で使えるようにしているネットワークでは、ヘルメットを北アルプス南部の遭対協に寄付し、槍穂高の山小屋でお客様に使ってもらえるようにしています。

昨年始まったばかりの事業ですが、今年はさらにヘルメットを着用する方が増えてきました。それは安全対策や火山の噴石を避けるためにもヘルメットの需要は推奨されて然るべきだと思います。私はそんな場所の山小屋を運営しています。今ブロードバンドのNP0の話をしてしまいましたが、ガイド組織、信州まつもと山岳ガイド連盟やまたみという長い名前ですが、この組織は国際山岳年の年につくったもので「We are all mountain people＝やまたみ」という名前があり、その名前をもらって組織をつくり、そこでは今約70名のガイドが所属しています。そのほとんどが他県から来た方です。地元のガイド組織はまた別にありまして、各登山口にいくつもあります。乗鞍、上高地、堀金（ほりがね）など10組織ほどあります。ただ、どうしても古い組合なのでガイドの高齢化が進んでおり、実際に大きく活動しているのは有明の組合になっています。

羽場崎 アルプスネイチャークラブの羽場崎です。アルプスネイチャークラブというのは昨年日本山岳ガイド協会に加入させていただいた、飯田下伊那を拠点として活動させていただいているガイドクラブです。私は飯田市で生まれ、父親が始めたアルプススポーツという山の専門店があり、そこが飯田市の山岳文化の発展に関わってきた場所であり、そ

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 4/18

れに関わった人を見て育ってきました。

飯田山岳会という組織が今でもあるのですが、当時はかなり大きな組織でヒマラヤ遠征なども行っており県内でも大きな評価をしていただいた時期もありました。そのような人たちを見てそだった反動かしばらくは山から離れた時期もあってその時期にいろいろなサービス業に関わり、今ではその時期での経験がガイドに役立っていると思います。

飯田下伊那、南アルプス中央アルプス南部の飯田を中心とした駒ケ根より南部のエリアは、伊那駒ケ根とは商圏も違ってあまり交流がないもので、伊那駒ケ根の中心のエリアではガイドはさかんに行われているのですが、そこから南になると、自分で登っていく山岳会があったのですが、お客様を迎えて山へ登っていく、山へ誘うという受け皿がなく、そういったものをいろいろ見る中で、安全に楽しく山へ行っていただける環境をつくりたいと思いアルプスネイチャークラブという組織を設立しました。ネイチャークラブ自体は5年ほど前から活動していたのですが、昨年日本山岳ガイド協会に所属させていただきました。

南アルプス、中央アルプスの南部といいますと、塩見岳から南部の登山口、遠山郷をもとに登っていく便ヶ島の登山口、大鹿村から入る登山口なんかが拠点になっています。

今回、ユネスコエコパークに登録されたということもあり、人の文化が育まれている地域からの登山口なので、文化と登山を結びつけるようなガイディングですとか、私が客観的に登山者を見る中で、山を自分で登っている人が連れていく山だとどうしても、俺のいうことを聞いていれば大丈夫なんだとか相手のことをあまり考えない、楽しめないうスタイルで山を案内することに疑問点を感じることもあったので、現在ではホスピタリティを持ったガイドスタイルを広めていって楽しく山に登れるようなガイド活動を行っております。

塩沢 ありがとうございます。

いままでの3人の方は山の受け入れ側としてこういう一つの団体をつくりながらお客さんへのサービスの向上を目指している方たちです。みんなで力を合わせてお客さんと呼んだらこの人たちがもう一度来たい南アルプスだなとそういうものが作っていけると思います。そういう点から訪れる側として神谷さんに来ていただいておりますので、今話を受けて訪れる側のお話を聞きたいと思います。

神谷 山と溪谷社の神谷です。山と溪谷社に入って20数年になるのですが、10年間、「月刊山と溪谷」という雑誌を作っていました。残り10年は森とかの書籍をつくっていました。だいたい登山を扱う仕事をずっとやってきました。今日は日本アルプスサミットということで南アルプス、北アルプス、中央アルプスの人がそれぞれお越しになっているのですが、いつも南アルプスに関わっていると皆さんにお叱りを受けるのですが「山溪はいつも北アルプスだよ」と言われます。で実際北アルプス、しかも槍・穂なんです。剣・立山というすばらしい山があるのですが、多分なぜ槍・穂なのかというと、剣・

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 5/18

立山は遠いのだと思うんですね。くだらない失礼な話ですが、読者の6割が首都圏、3割が大阪関西圏、2割行かないくらいが名古屋中部圏です。首都圏の方が多くの読者ということがあって、新幹線が通ることで剣・立山も行きやすくなると思いますが、一番売れる夏山前の号は槍・穂になる。その次、八ヶ岳は冬のイメージが強いので、南アルプスになる。やはり首都圏から動く方が多いので、メインになる北岳、甲斐駒ヶ岳が掲載されます。南アルプス全部を扱うこともありました、売れないんですね。編集者にはビバークや沢登りが好きな連中がいるのですが、みんな南アルプスが好きです。ちょっと前だと山と溪谷社が行くと怒られるという厳しい山小屋もあったのですけれどもみんな好きです。それは大きい、人が少ない、好みにもよりますが、花、危険個所も少ないということがあってみんな好きです。槍・穂と比べると人気が低く雑誌の方はそんなに売れないが、逆にいうとそれが魅力、南アルプスの売りなのだという大変失礼ですが、そんな感想です。

塩沢 南アルプスの人気はもう一歩かなと思いますがそれをどうするかという論議はここでは行いませんが、つい最近出版された一冊の本がここに 있습니다。私も関わっていますが長野県在住の山岳ジャーナリストの菊地俊朗さんが著した「ウエストーンが来る前から、山はそこにあった」です。この本は地元の人々がどの様に山に係ったか、また登山史の表舞台に立った数々のアルピニストを導き、支えた地元の人々やガイドにスポットを当てた「地元目線の登山史」が書かれています。そこで本日は「山や登山者と地元の人々のかかわりや山案内人」がどの様に考え行動してきたかを検証し、話を進めて行きたいと思います。各山域で活躍した人々やガイドの人物像を紹介していただき、それらが現在の登山や各々の活動にどのように反映されているのか、つまり先人達や山がどの様にして人を創ってきたかを語っていただきます。

穂荻 北アルプスの関係でガイドの方は大勢の方がいらして外国の方を案内したり、学校山岳登山を案内しました。

飛騨、富山の方でガイドではないが、幡隆上人（ばんりゅうしょうにん）という人がいます。その方が槍ヶ岳を開山されたということですが、さらに「中田又重郎」という安曇野の方ですけれどもその方が幡隆上人を助けて槍ヶ岳を開山した。幡隆さんは「笠ヶ岳」というところの山に再興登山し、そこから見た槍ヶ岳に感動しぜひ登りたいということで信州にいらして「中田又重郎」というガイドを得て槍ヶ岳に登頂したとのこと。

幡隆上人の笠ヶ岳再興登山の頃、信州と飛騨の交易路（飛騨新道）が工事中でした。信州側は現在の上高地まで開通したが飛騨側は幕領であったため、なかなか許可がおりなかった。幡隆上人が槍ヶ岳に登られる前に信州側の道ができており、その工事の手伝いをしていた中田又重郎がいたために、容易に登れないだろうと言われていた信州側から登ることができたと言われています。実際その道づくりに係った方は現在温泉ホテルなどを運営されており中田又重郎も上高地で畑をつくっていたというような話もありま

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 6/18

す。ひとつは幡隆上人に係る人々が上高地では大きな影響を及ぼしたということです。

もちろんそれ以前に松本藩は上高地の谷で木を伐採して冬の燃料にしたり建物の屋根にしたりそういう作業を地元の 4 ケ村の山奥の部落に年貢の変わりにそのような作業をするように言うておりました。岩岡村庄屋伴次郎という飛騨新道を作ることを計画した方が上高地の人に話しをしてそのようなことをやっていたという経緯があります。

そこに明治に入って要は木を切りすぎたからといって上高地の木が切れなくなって、そこに嘉門次さんのような釣り師が入ってきてウエストンや大学の山岳部の人たちを槍・穂に案内したという歴史があります。

もう一つは百瀬慎太郎さんという大町の旅館をやっていたところに大勢の山屋さんが集まってきました。対山館という旅館ですが、昔は大町までしか行けなかったので山へ行く人は対山館でガイドを雇ってから山へ行ったという時代があったということです。その大正 6 年頃に日本で最も古いガイド組織を百瀬慎太郎さんがつくられました。大町では「慎太郎祭」という祭りを 6 月初めにやっております。

嘉門次の弟子で小林喜作という人もいます。私の祖父も山小屋を建てる際に嘉門次さんに相談してババ平は雪崩が来ないから良いとアドバイスしてもらい、実際は何度も雪崩が来て小屋が潰されたのですが、そんなことがありました。

喜作さんには常念から今でいう二の俣の谷へ降りて槍沢へ入るルートから物資の補給を面倒をみてもらったりしました。

またある時は、祖父やその仲間達は嘉門次や小林喜作に案内してもらって後にいう「喜作新道」を見せてもらったりというご縁がありました。喜作さんが生きていればもっといろいろできたと思いますが、大正 12 年の雪崩で息子と一緒に流されて亡くなってしまいました。

北アルプスの他の地域、立山には物凄い数のガイドがいました。飛騨にも今田重太郎さんの一族とか、松井憲三さんというガイドさんがたくさんいらっしゃいました。

上野 南アルプス南部静岡側の歴史というと難しいのですが、近代登山が始まった明治時代に冠松次郎ですとか、中村清太郎という登山家が静岡市から大日峠を越えて南アルプスに入っています。入山するだけで今の登山口の畑薙に 5 日かかるとか非常に厳しい行程で行ったと思うんですけど、当時の紀行文を読みましても北アルプスや南アルプス北部にいたような「山案内人」はいなかったようです。南アルプスは現代でも登山者が少ないということです。車が畑薙に入るための最後の集落である井川地区に入れるようになったのは昭和 40 年代です。それまでは大日峠、井川峠という道を歩いて越えていたのです。昭和 40 年代までそういうことが続いていたということで、山案内人のシステムができなかった。その中で有名なのは南アルプスの大半の土地を所有している特殊東海製紙の創始者、大倉喜八郎です。大名登山をされたという大倉尾根に名前を残しているような人がいました。ただ、登山史上をかざるといって著名な方はいらっしゃいません。昨日まで妙高で登山ガイドを育成する専門学校で生徒を実習で連れて歩いていたのですが、おとといは霧ヶ峰の御柱、諏訪大社の下社の御柱を切り出す観音沢というところを歩い

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 7/18

できました。そこには御柱など歴史を語るものがいっぱいあり泊まった山小屋がビーナスラインができる前から山小屋をやっているヒュッテ ジャヴェルという 60 年以上の歴史がある山小屋です。尾崎喜八が命名したという山小屋ですがそこで若い生徒たちに歴史について語ったのですが、静岡側で活躍した人を紹介できないという残念な状態です。

羽場崎 南アルプス、中央アルプスの歴史上、山をつくってきた人というのと、先程出てきた北アルプスのガイドさんは数多く有名な方がいますが、その中でも皆さんご存知の上條嘉門次さんという上高地の嘉門次小屋というイワナを焼いてくれる山小屋があり、その嘉門次さんと並び称されるというのが南アルプスでは竹澤長衛さん、中央アルプスでは堺沢虎一さんという二人があげられるのではないかと思います。竹澤長衛さんというのは南アルプスの北沢峠に長衛小屋というのがあると思いますが、その名前にも残っている明治時代から活躍されている山案内人の草分けの方です。昭和 33 年に亡くなられるのですが、南アルプス北部の草分け的な方です。南アルプス南部では名をはせる方はなかなかいないのですが、北部の方ははやくから山案内人として活躍されている方がいるということがあげられます。

中央アルプスは堺沢虎一さんという方が挙げられますが、大正時代に中央アルプスにガイド組合をつくったということで、その息子さんが堺沢清人さんと言って駒峰ヒュッテのご主人をされている方で、私はスノーボードを流行る前からやっております、中央アルプスにも行きましたが当時は山でスノーボードを滑るのは怒られるような時代でした。よく堺沢清人さんには怒られた記憶があります。その方のお父さんが堺沢虎一さんで、95 歳までガイドをしております、最近までされておりました。

虎一さんにガイドされた 60 代の教員だった女性がいますが、学校登山で虎一さんに案内してもらったのですが、他のガイドが雨が降っているので中止にしようと言っている中、堺沢虎一さんだけが山の空を見て「大丈夫だから」と言ったので山に入ったところ、天気が晴れてきてすごいなと思ったということがあったとのことでした。

この時代のガイドさんは山を生計の場としていた方が多かったと思いますが、そういったことで山の天気だとか山の様子、危険な場所だとかを体で覚えて感じている人たちが山を案内しているということだと思いますので、今の私たちがガイドとしてお客様に提供しているのとはまたちょっと違ってもっと自然と近いところでお客様を案内していたのではないかと思います。

清水 先ほど私が山に入ってから 50 年というお話をしましたが、今話題にしているのは 150 年ほど前の話です。私はその案内人が生まれた背景を説明したいと思います。芦安の場合を例にすると、高い山に囲まれて産業というものがありません。当然山に入ってから林業、木挽き、猟師として生計を立てていく感じでした。例に挙げると樹木の伐採は冬に行わなければものになりません。雪の凍てつく中、大樺沢、広河原奥の山の中で大木を伐採して昔はテッポウという水を溜めて一気に流すという方法で運搬して行きました。それが野呂川や早川において行われていました。それが生活。そこに明治 35 年のウエスト

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 8/18

ンの北岳登山を代表するように外国人、その後日本の山岳会をつくったような方々が動き始めるわけです。

その中で山の地形や天候を知り尽くした人たちが雇用されるわけです。そんな背景があって芦安でも案内人が育ってきたわけです。特に私が思うのはその背景、地域はどう感じたのだろうかということ。今までは生活の場所の山。例えば、木こりたちの話だと天気の良い日は北岳の山頂から海が見えるとそんな話が明治時代には出回っていたということ聞きます。そんな時に外国から当時のハイカラという人が山に登りに来て、山を登って何が楽しいかという新しい山登りの形というのを地元では影響を受けて感じたことと思います。事実、私が物心を覚える頃地域のおばあちゃんたちは今の温泉ロッジから登っていく登山者を見て罵声を浴びせていたことを覚えています。そういうことで地元にはなかなか登山というものが定着しなかった。その中で案内人たちは雇った人たちを十分満足させながら活躍していったのです。その後、大正後期に甲斐山岳会というものができまして、芦安支部がつけられました。当時代表的な活躍をされたのが青木久治郎さんと名取治太郎さんですね。二人とも私の家の隣なのですが、当時は40歳くらいで活動を始めていた。その案内人組合がどういうものかということ、今のガイドに共通するような資質、精神が定着していた。ここに当時の案内人が持っていた手帳のコピーがありますが、本人の顔写真と許認可の日、以外と思ったのは案内人の心得という部分にすばらしいことが書いてある。「登山者に不快な思いをさせないこと。」、「みだりに高山植物を採取せざること。」、「山地の自然環境を保全せずこと。」、「山小屋、指導票、橋梁等を保護すること。」、「難時は迅速に対応する。」ということが書いてあって定期的に講習会が開かれていたようです。その中で名取治太郎さんという方は特に優れた方で、冬山、わかんの技術に長けていてみんなのリーダーであった。特に困難な案内とか、遭難救助には必ず指名されていた。ですから山梨県の観光連盟や甲府ロータリークラブから要請をうけていたようです。特に我々の印象に残るのは昭和12年の12月末に東京商科大学（現在の一ツ橋大学）の小谷部全助らが冬の北岳バットレスの非常に難しい登坂をしているんです。その案内なんかもしているのです。当時治太郎は41歳の時だったということです。そんなことで東京商科大学山岳部OBの針葉樹会とは現在も芦安山岳館を通じて我々と交流を持たせてもらっています。

芦安ではないのですが、今の北杜市武川に産まれた水石春吉という人がいます。その方も甲斐駒、鋸岳を中心に活躍されているのですが、一番印象に残るのが積雪期の北岳3月ころの初登を京都の三高と競い合った。京都三高の方は竹澤長衛さんのガイドでお願いしたと。で、片方の平賀文男さんは水石春吉をお願いしたと。わずか6日遅れで京都さんこうの方が早く登ったということで話題になっているのですが、その帰りに冬の甲斐駒を登って帰ったために甲斐駒の積雪期の初登班になったのです。当時水石春吉は54歳。京都三高で活躍していた一人が南極越冬隊に行った西堀栄三郎さんです。そんな一部の人を紹介しましたがそうではない裏方の人でも、例えば芦安から荒川を渡渉して北岳に上がった、間ノ岳、農鳥岳、塩見岳、荒川、赤石から樫島、青畑までを当時の整備されていない登山環境の中、7日間で案内をしていたというのはすごいなと思います。

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 9/18

す。

塩沢 今まで紹介された方々は現代の私たちにとってはあまり知ることのない方々だと思います。ですが、ウェストンや小島烏水など著名な登山家をきちんと助けて支えてきたということを今ここで学習することができたと思います。

その人たちが裏ではかなり苦勞していたということです。そのときに自分のクライアントにどういう姿勢で向かったかということは私たちに学ぶ必要があるのかなと思います。そして、これからのガイドが行っていくのは国際的なガイドも含めて上野さんにこれからのガイドについてありようとか、どのようにすれば満足できる登山ができるのかとかそのようなことをお話しいただけますか。

上野 私が所属している公益社団法人日本山岳ガイド協会という組織は現在およそ 1400 人のガイドが登録されています。次年度 2000 人を超えるガイドが登録されるという日本で唯一最大の職業ガイド組織になるのですが、その資格がいくつかあります。自然ガイド、登山ガイド、山岳ガイド、国際ガイドに分かれています。今話題に上がっているのは登山ガイド、山岳ガイドという形になるのですが、こういった形のガイドがどのような業務を基本にしているかということになるんですが、一つは安全です。お客様にガイド料をいただいて、何を提供するかということですが、一番は安全です。お客様を安全に登山に誘うということですね。もう一つが楽しさということですね。登山というのは単にピークハント、山頂に登って帰るという行為というのではないのです。それに対するいろいろなものが負荷としてあります。例えば女性のお客様だと高山植物などに興味をもたれている。あるいは歴史的なもの、歩いているといろいろなものに出会いますがそういった歴史的なものに興味を持たれる、あるいは昔の登山者たちの紀行文に接するなど様々な楽しさがあります。そういったものを経験の少ない、あるいは知識の少ないお客様に伝えてよりその登山を楽しく印象的なものにして行くというのが私達ガイドの使命なのだと思います。それから、登山というのは本来、近代登山としてまた自由な遊びですね。こうあるべきものであるとかをひとくくりできるものではない。私達がこういう環境で思うのはもうちょっと自分で山を選んで登れるような登山者になってほしいなと思います。首都圏のお客様の大半が夏になると槍ヶ岳や穂高に向かうというのが現実ですけども、山は他にもいっぱいあります。その中で自分の好みの山を選べるような自主的な選択ができるような登山者が増えてもらいたいと思います。これはガイドという立場ではなく、一登山者として思います。

これからガイドがどのような活動を行って行くかということだが、非常に経済的な観点から見ますと私達のおかれているレジャー業界というのは非常に厳しい状況です。そういった中で年金がやがてもらえなくなるのではないかという不安を抱いています。そういう中で私達の主要なお客様である 60 代で年金をもらってガイドを雇って安全に山へ行こうというお客さんの層がどうなっていくのだろうと考えているのですが、そういった中でひとつの活路として見出して行こうとしているのが、海外のお客様です。海外の

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 10/18

お客様を多く迎えようと ようこそジャパンの一環ですね。私達ガイドが日本の美しい自然を海外のお客様にも紹介しようという考えを持っています。もうひとつ、私達の時代は山岳部、山岳会に入って先輩から後輩へいろいろな登山の文化を伝えてもらいました。それは技術だったり思想的なものを含めて登山というものを伝えてもらいました。今そういった組織に属する登山者は非常に少ないです。特に若い方は新たに入ろうと考え出す方はほとんどいません。そういった中で私達ガイドの役割は非常に大きくなっていくだろうと予想できるのですが、若手のガイドの育成、若いがゆえに登山経験も少ない、人生経験も少ない、技術的にも未熟である。そういった人たちを私達が育成して行くということです。こういったことも考えています。

塩沢 ありがとうございます。先ほど長衛小屋という話がでましたけれども、伊那市の方から長衛小屋の名前を残してくれということで、南アルプス市長が命題に乗って歴史的な名前が地に残ったというのは個人的にも意味があることだなと思っています。そのような行政の理解とか、行政が山に関わるこういったことがかなり重要なことなのかと思っています。そういう意味で山小屋とか山を歩いていることに対して行政にこういうことをやってほしいとかありましたらお話ししてほしい。

穂荻 ある意味報告になるが、昨年まで松本市が登山道の補助金を 20 万円しか出してくれていなくて、少なかったのですが、昨年から 500 万円の予算が付きました。今年になってから安曇野市も 500 万円の予算だということで、山岳観光に対して行政の方である程度やっていかなくてはならないということが言われてきているようです。今上野さんがおっしゃったガイド登山もそれなりに歩いているようです。一番は日本の山中だといろいろな種類の道標があってわかりづらいという問題があり、環境省さんの範中だと思いますが、道標の統一化ということをや前から言われているが、そのわりに進んでいない。多言語化ということも必要になって来るしこの前中央アルプスで韓国人が亡くなった時も登山道がよくわからなかったという話があります。やはり外国の方に来ていただくためには道標の整理というのは重要だし、整備も個々の自治体でやっているのではなくて、特に今回ユネスコエコパークということで地域全体が一丸となっていけるということであればぜひ道標についても一元的に管理し、市町村ごとに同じ場所に道標を設けるというようなことがないようぜひ合理的な形でやっていただくのがいいかなと思っています。もうひとつは WiFi について。富山で WiFi の整備をされ、台湾からのお客さんがだいぶ増えているという話も聞きますのでその通信環境の整備というのも行政として携帯電話各社（ドコモ、au、ソフトバンク）を同時ではなくても全部使えるような環境を山の中につくっていただくとがすごくわれわれ山で生活してくものにとっては重大な部分だと思います。尾瀬だとせっかく作った鉄塔を撤去したという話も聞いてますが、そういうことではなくて山の中の通信システムは登山者の安全にもなる。登山者のはやく情報を得て安全な行動をとれる情報源、歩いている人にとってはそれだけしか情報源がないのですから、ぜひ全国的にも展開していただけるとありがたいと思います。

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 11/18

塩沢 ありがとうございました。さきほどから再三話に出ているがユネスコエコパークに登録されたということで、もしかしたら3県の首長たちが集まって、エコパークの中の道標を統一しようとかそのような話が出てくると非常にいいなということなんだろうと思います。また、無線システムも最近は高い稜線では携帯電話を使えるので高いところからも110番通報があるようですが、非常にむずかしいのは谷間など全山をカバーすることだと思います。それぞれの携帯電話会社でエリアをカバーしようとしていると思うが、行政のほうで少し後押しをしていただければ早く進むのかなということでしょう。今山小屋の方に話を伺ったが、神谷さんに山小屋とか行政とか地元とかに対して利用者の立場でどうかしてほしいことはあるでしょうか。

神谷 昔のガイドの話から一気に行政の話になったのですが、昔のガイドさんは改めてすごいなと思いました。それは道案内をする、荷物を持つ、料理をつくる、リスク管理をする、救助をする、自然観察ガイドをする、まるでスーパーマンのような人。昔のガイドさんがそれぞれやっておられたということでそういう人が山を案内していたんだなと思いました。で、道案内するという部分が登山道、道標という環境省なのか県なのか、自治体なのかに変わられた。料理をつくる部分は山小屋、リスク管理は自己責任という言葉があるが、自分自身かガイドさん。昔は全部一人でやっていたことを山をとりまくわれわれが分担し合って、山と溪谷社は雑誌という形で山の案内をしています、いろいろな形でひとりの山案内がやっていたことをみんなでやっているんだと思いました。そういうスーパーマンみたいな人たちから山を案内する、山に来ていただく、あるいは送り出すという風にわれわれが受け取ったわけですが、登山道、道標の話がありましたが、トイレなんかはひとつの大きな問題だと思います。富士山のことで結構ニュースになりましたけれども一部の地域がいろいろ問題があるといいますが、携帯トイレが実験的に導入されていたり、人が多いところはトイレを買い取られてヘリで降ろすとか地域の事情に合ったトイレが普及していると思いますが、山ガールブームというのは私は終わったと思っていますが、今の人たちは和式トイレに座れない小学生がいると聞いて驚愕したのですが、時代がそういう風になってきて和式どころかポットンだと厳しい、そういうやつは来るなど言えないでもないのですが、やっぱり山のすばらしさを知ってもらうためには時代も変わっているので環境に負荷のかからないスマートな方法というのがチョイスできる。やっぱり山のトイレということに関しては今後も自治体、環境省だけではないと思います。特に北海道だと広大な山岳エリアで地元の山岳会のボランティアがし尿を降ろすというというのが毎年この季節の山小屋が閉まる季節になると行われています。そういう努力も含め山のトイレの問題は大きいなというふうに思います。ただそれが環境省、あるいは県の問題なのかというと我々登山者自身も協力する意識を持たないといけないなとも思っています。そういう時に携帯トイレのようなもの、あるいはチップ、有料、お金は当然のこととしてそれぞれの山の事情に合ったルールを守るというのも大切だと思いますし、穂苅さんのところがすごく先達として山のトイレ

日本アルプスサミット記録（山梨イベント）12/18

の取組みが広がっているところもあることもありまして、そういうところは引き続きこういう時代になってきたからこそ大切なもの。ご協力 しますし、したいなと思っていますところですよ。

塩沢 ありがとうございます。私の観点が違っておりまして、さきほどのガイドの件でいままでガイドがしてきたことがなくなってきたと。例えば炊事は山小屋に任そうとか登山のシステムが変わってきた。ガイドの話の続きになるが、じゃあガイドは一体どうするのかと。道案内は登山道で道標がしてくれる、登山者としてはある程度エネルギーが省かれ、ガイドの仕事が少なくなった。その中でこれからのガイドはどうなんだということがありますか。

神谷 さきほど上野さんからお話があったように山と溪谷社でも山の実用ページを登山家とかクライマーが出てきて技術を教えるというページをつくったのですけれども、実際ガイドさんを多様するようになりました。山を単に連れて行ってくれるのではなく教えてくれる部分というのが増えているなというふうに思います。もう一つはユネスコエコパークだからということではないのですが、ある意味先祖がえりではないのですが、もともと山案内の方が、釣師、猟師、林業とか山や森の中で生業として生きてこられた方が案内人として来られているということ。そこでの話というのがお化けの話なんかもあったと思いますが、自然や生きものの話し、山全体の話し、そういう山のすごさや豊かさや多様性みたいなものを昔の山案内の方は、いろんな仕事の中でもそこを軸に案内してその経験を山案内人として生かしていたのだろーと思います。そういう意味では今の時代もいろんなことが道具も良くなったし道も良くなったという意味では、今の段階での山岳ガイドさんはもともと山の案内人が持っていた知識というか経験というか山岳信仰も日本の山の源流のひとつなので、そういう部分での期待、ただ花の名前を教えるだけではないということがガイドさんには求められているような気がします。

塩沢 ありがとうございます。つまりガイドさんと同時に先生(teacher)的な立場ということの良いでしょうか。

神谷 ものを教える部分の teacher、あとは気づいていただく、喜びとか悲しみとか深さを知ってもらふときのサポートする部分、事实はすべて教えられればいいのですが、山のすばらしさをガイドさんにすばらしい、すばらしいと言われてもそうは思わないと思うのでそれを感じていただく、知っていただくそれを補助をするという部分は teacher とプラス先達と言っていいのかわかりませんが、そういうところもあるのだと思います。

塩沢 ありがとうございます。先ほどからガイドという話がでていますが昔のガイドの話も出てきました。今回このテーマとして「受け継ぎ、歩む」というテーマをかかれています。では先達たちが残してくれた自分達の精神的な財産とかをどういうふう

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 13/18

にして受け継いでいくのがいいのだろう、つまり例えばこういう登山のあり方がいいのかなと例えば学校登山とかそういうことについて、先達達が残してくれた宝をどのように今の私達が受け継いで、次代に残して行けばいいのかということをテーマに清水さんどうですか。

清水 だんだん話がむずかしくなってきましたけれども、受け継ぐ、残すというところですと、一つの例として、芦安の案内組合の方々が約40人くらい芦安山岳館の展示コーナーに顔写真と略歴、案内した山などを展示してあります。その写真を一つ一つ見ますと私としては誇らしい人々が写っているように思います。案内人手帳や山行記録が残っていないようなものもたくさんあります。今の時代ではないので、その人たちは読む、書くがあまり得意ではなかったのだと思います。それぞれが登った山とかほとんど記録に残っていません。その人たちの貴重な意思とか実績とかを我々がなんらかの形で後生に引き継いで残す必要があると思います。約16年前にできた芦安ファンクラブでは結成してすぐに広河原の開山祭りをPRしました。その神事後、蔓払いという儀式があるのですが、その儀式に明治、大正時代の案内人のいでたちを披露してその人たちが道なき道を案内していたさまを蔓を切ったり払ったりする姿をみなさんに見てもらう。そんなことも加えて新たな開山祭にしています。それから、34回を数えていますが芦安ファンクラブが山を切り口にして登山教室を開催していき、最初の登山教室は60人過ぎで参加するという、当時であれば考えられないような大規模な登山教室で当時の村長をはじめ村に伝わる夜叉神太鼓とかそんなことで大歓迎していました。その登山教室は今でも続いています。そのあとの引き継ぐという部分でガイドになる方のスキルアップとか研修とかいうことで育てていくことになるが、私が個人的に関わってきました学校登山の見方からしますと、やはり今ちょっと衰退しています児童、生徒への環境教育、学校登山によってある意味正しい山の楽しみ方、そんなことを教えて行く環境を整えて行く必要があると思います。そんなことから手始めにしていっていただこうかと思いますがこれは次世代への課題だと思います。

塩沢 ありがとうございます。学校登山ということで話が進みましたが、学校登山は山梨県では昔はけっこうなされていたような話も聞きますが、だんだん衰退してきてしまっているという。信州では年間4万人くらいの学校登山をしている。その中では遭難もあったという話も聞いている。今の話のなかで堺沢虎一さんが学校登山に関わってきたようですが、そのこともふまえてこれからの学校登山に対する提言がありましたらお願いします。

羽場崎 長野県はかなり学校登山がさかんな場所でした。山梨県同様に長野県も学校登山が衰退してきている感じはあります。全体的には少なくなっているが地域ごとで温度差があり、北アルプスの麓、中央アルプスの麓、駒ヶ根、伊那あたりの地域だとまだ学校登山をやられているということで、保護者の方の意識も関係していると思います。やはり、

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 14/18

山岳観光という視点から言わせてもらおうとそれで生計を立てたり恩恵を受けている地域だとまだ理解があるが、私が住んでいる飯田下伊那地域なんかはほとんどそういった方がいらっしやらないということなんです。そうすると、登山は危険なものだという意識がありまして、先生方も保護者からそう言われるとやはりリスクを背負いたくないのでできない。そういう中でだんだんフェイドアウトしていつているのではないかというのが現実です。その中でも信州の豊かな自然を生徒に見せたいという先生がいた場合に関して積極的に登山をやらせたいという感じですので、世の中登山が見直されている割には学校登山ということでは全体的に減っているのではないかというふうに思います。話は戻りますが、地元の山に対する考え方と旅行者として東京とか大阪とか都会から来られる方の登山者の温度差があるのではないかと感じています。先ほど、ガイドとか山案内人の話をした中で同じ言葉でガイドと言わせてもらったのだが、昔の山案内人と今のガイドでは質も行動もまったく違う。山に精通した人がある限られたお金持ちの人、登山家を案内する登山ガイドとその後に近代登山を山岳会という形で組織で学んで組織で登って行く世代、そしてだんだんと若い方、山ガールと呼ばれる方たちが山に戻ってきていてそのような方たちはどちらかというと旅行感覚で山を登っているのではないかと思います。そういった感じで世代ごとで山に対する感じが違うように各地域の人と外から来る人の山に向かう姿勢も違いますし、その山でたくさん受け入れている地域の場合は子供の保護者や住んでいる人の感覚も違うように山に対する温度差があるんじゃないかなと思っていますので、山に対してどうしていくのかと考えるときに、そういう部分を考えていただくといいのではないかと思います。

塩沢 ありがとうございます。数々の登山の形態があってこれからのガイドの形態もあるのだと思います。

質疑応答

来場者 1 登山の歴史がよくわかりました。私は山梨県南アルプス市の人間として登山者数が資料によると北アルプスは登山者と観光客合わせて 1500～1600 万人の人が入っていると聞いています。ところが南アルプスは 50 万人。私から見ると山梨県にしても南アルプス市にしても山は眠れる宝だというふうに思っていて、50 万人というのは寂しい。少なくとも 100～200 万人くらいの人に来ていただきたい。お客様を迎えるために迎える側は何が必要なのかと。行政でできることは何なのかと考えている。今度、芦安と早川を結ぶ道路ができる。こういうことが山岳観光の宝として活用しながら南アルプスの観光をやっていただければいいなというふうに思っている。そのためにどのようなことが必要か聞きたい。

塩沢 大変大きな課題だと思う。

神谷 この 50 周年記念事業が始まる前に伊那市に呼ばれて、南アルプス市から入る登山者

日本アルプスサミット記録（山梨イベント）15/18

が多くて伊那から入る登山者は少ない。伊那から入る人を増やすためにどうするかという会議に呼ばれ、数値などをもって説明をした。

ゾーニングということがあります。上高地を例とすると、上高地から徳沢まではウォーキングハイキングができる場所がある。そこから先、涸沢までは登山初心者、そこから先は登山上級者というゾーニングがあって、上高地はある意味開き直って観光地です。車椅子で行動できる場所があったり。そういうゾーニングをして整備をしていくことが大切。登山エリアに関しては山小屋というキャパがあって山小屋はがんがん大きくできない、日本人の休暇の取り方で混雑してしまうとかいろいろあるのだが、多く増やしたい場合、ユネスコエコパークもそのような理念に基づいていると思うが、守るところ、利用するところ、生活するところ、50～100万人がいいのかどうかわからないのだが、その規模を迎えるのであれば、山麓の地域に魅力を発見する、北岳に50万、100万の人が来るというのは違うと思う。まさに宝だと思う。山にも山麓にも宝はたくさんあると思う。上高地を目指せというのではないが、ゾーニングした上で開発、再発見かもしれないが、果樹、里山、農業も南アルプスユネスコエコパークの財産だと思いますのでそのように見れば考え方はあるのではないかと思います。

繰り返しますが、登山のエリアは登山道やトイレの問題など山梨県では富士山で頭を悩ませていることもあると思うが、キャパシティ、環境収容量が決まっているのでそれをあまり気にしなくていい環境をどう考えるか、つまり南アルプスブランドで山麓で人が来る戦略。今回協賛のサントリーさんもそうだと思います。「南アルプスの天然水」といって南アルプスに登らせるかと思うと、白州でウイスキーや水の工場があり見学ができたりと南アルプスブランドをうまく活用したゾーニングに基づいた考え方というのがあるのかなと思いました。

塩沢 ありがとうございます。この問題はこの場だけでは収まらないものだと思います。今神谷さんがおっしゃったことはひとつのヒントになると思います。この問題についてはまた考えて行きたい。

穂苅 上高地の年間利用者数が約200～300万人という数字が一人歩きしているようだが、上高地の宿泊施設の収容人数というのはずっと少なく、大半の人がバスで来て一周りして帰る日帰り利用者。数字自体はあまりあてにしない方が良いと思います。

来場者1 地域の活性には多くの人に来ていただけるような環境づくりだと考えています。ヨーロッパでは登山者が山麓の町に滞在して登山を楽しむというスタイルがあるので、南アルプスもそのようになるといいと思います。

上野 タスマニアを例にするとタスマニア州というのは人口50万人、北海道ほどの面積のところ。そこに年間90万人の観光客が訪れています。先ほどの話だと非常に少ないですね。ところが一人の観光客の滞在日数が平均で10日間です。ということは延べ900

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 16/18

万人です。その方々のほとんどがエコツーリズム、自然体験目的です。カヌー、フィッシング、マウンテンバイク、ホーストレッキング、いろんな自然体験ができますが大体 10 日間滞在します。そうしますと麓の町で宿泊する、レストランを使う。このエコツーリズムの収益がタスマニア州の中で一番主要な経済の柱となっています。もう一つはアルミの精製というのがありますが、それに並んで大きな柱になっている。わが国でもエコツーリズムという言葉が言われていますが、経済効果を狙ったエコツーリズムというのがほとんど行われていないのが実情。そういうところに着目していただければいかに人数を延ばすのかということではなくいかに滞在日数を増やすのか地元の魅力のある場所を設けるのかということがポイントになるのではないかと私は思います。

塩沢 非常に参考になる意見だと思います。このことは別の機会に大勢の方を迎えて話しあえるものだと思います。一方では自然保護というひとつの課題がまた浮き上がってくると思いますので、そんなことでまたこんな会が開けるといいと思います。

保護と利用でどんな制度があるかとみなさん知っておく必要があると思いますので、環境省の方から、今までの話を受けて、保護と利用の仕組みや制度、南アルプスのこと、これからのことなどお願いします。

中村自然保護官 日本の自然保護の制度ではひとつは国立公園を中心としている自然公園法という法律があります。これは区域をある程度指定して、その中で景観を守ったり、適正に利用していこうという保護と利用という二つの柱を掲げて守りながら利用して行くというのが国立公園の制度です。ただ、南アルプス国立公園というのは山の上の山岳部分のみです。先ほど人数の話もありましたけれども、国立公園のエリアによっても変わってきたりしますので、どちらかという自然と人をつないでいる人たちが今後必要になってくるのではないかと思います。制度だけで自然が守られるわけではなくて、話の中でいろんな人たちが関わってきているということ、役割分担しながらその中で守られているということがありますので、日本の場合はいろんな人との関わり、人と人とのつながりをうまくしながら、関係者が協議しみんなで自然を守っていくことが日本の国立公園の取り組みです。そういったところで今年、ユネスコエコパークに指定されたので、守るところを守りながらいかに質を高めた利用、保全を進めていけるのかというのが今後南アルプスで進めていけたらいいのかなと思います。

塩沢 ありがとうございます。最後に本日お越しいただいたパネラーの方から一言ずつお願いします。

清水 今後の課題として次世代へ引き継ぐという話をし、学校登山の衰退の話がありました。が、この周辺で高山に学校登山を行っているのは芦安中学校だけだと思います。実は私は 25 年前からそれに関わっており、要は自分のエゴですね。自分の経験から芦安のすば

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 17/18

らしい自然を見ずに社会へ出て行ってほしくない、そんなことから当時の校長先生の許可をもらってから 25 年が経ちました。先ほど、学校登山のリスクの話が出ましたが、引率する体制が大変だというふうになっていると思う。芦安中学校は今年 9 月に北岳学校登山へ行ってきました。大分気温も下がって朝は氷点下で風のある中で全員が登頂を果たし、感動を与えてくれたという、貴重な体験をしました。生徒十数名に対してガイドや支援者が 6 名付き相当贅沢な体制で行って来ました。まず安全第一、けがをさせない、一人でも登れない子供をださない、そんなことが学校登山では大事だと思います。他の学校にも学校登山を行ってもらいたい。我々ガイドも協力するので自由参加でも子供達と事前学習をしながら北岳、仙丈ヶ岳などいい山を登ってもらって次世代へのつながりをつくって行きたい、そんなことを目指して行きたいと思います。市長よろしくおねがいします。

塩沢 よろしくおねがいします。

上野 私はガイドを約 20 年間やっていますが、地元のお客様で 20 年間毎月来ていただいている方がいます。そのようにガイドはお客様に育てられているということがあります。今年南アルプス市にガイドの組織ができましたので、ぜひ地元の方々に一度はガイド登山を体験してもらいたいと思います。もし個人で登山をされている方、ガイドを使うのに躊躇するという方は、山をピークハントするだけのものではない捕らえ方をしてほしい。山には自然も文化もさまざまなおもしろいものがあるので、そういうものを楽しみながらのんびりと登山するのが一番長続きする方法だと思います。

穂荻 山小屋には学校登山で何校か来ているところがあります。東京の成城中学校が来ています。ガイド 3 人、付き添いが 5 人に対して 30 人の生徒、燕から槍まで一日で行くというのがずっと同じ行程です。3 班に分かれて行くということで、山に対する思いが強い。創立者が松本の人なので、その思いが強い。奈良の東大寺学園で毎年高校生が来ておりガイドが 2 名と先生が来ている。今年は他の学校もいくつかきており、槍ヶ岳などの難しい山も来られている。ただ、地元の学校登山は徐々に山のレベルを下げている。残念に思うが、やはり登頂したときの感動はある程度難しい山のほうが大きいわけでそういった思い出を子供達に与えてあげることは大事なことだと思います。その経験をもってふるさとから出たときに 昔の学校登山は軍隊のようにみんな一列になって登って降りて行く、ご飯はカレーというものでしたが、そういうことを楽しめる学校登山にすると思います。松本市も補助してほしい。

羽場崎 地元の方が本日多いと思いますが、地元の人と登山に来る人では登山に対する感覚が違うと思ひまして、地元の方は山にきのこや山菜を採りに行ったりする中から近くにハイキングする方が多いのではないかと思います。遠くから山に来られる方はけっこうお金をかけてこられる方が多いです。遠くから来て高い交通費を払ってホテルに 2,3 泊して

日本アルプスサミット記録（山梨イベント） 18/18

来られるのでひとり 5 万円くらいはかけて南アルプスに登りに来るという方が多いので、まずはそういう方をもてなしてあげることが、今来られている方は山に対して感度の高い方が多いと思いますので、もてなすことから山の良さが広まって行くのだと思います。地元の方からみると登山者はお金を落とさないという感覚もあると思うが、そういう人をもてなすことでどんどん広まっているのだと思いますし、そういう人が集まっているのが今の北アルプスだと思います。そういう意味では北アルプスと南アルプスとは国立公園としても 30 年の違いがあるのではないかと思います。

先ほどどうしたらお客さんがたくさん来るかという話の中で道を整備するという話も出たが道というのは登山者にはあまり重要ではないと思う。駅から来やすい交通機関があり、頻繁に運行していれば登山の登り口まで遠くてもそこが楽しく歩ければ登山者は苦にならない、上高地はバス停から 3 時間歩く。結構長い時間だが、上高地はそこを楽しめるのでそこを歩いて登山がスタートする。登山口まできれいな道ができたからといって人が増えるかというところでもない。登山口までの道のりも楽しめて自然があるというのが南アルプスの魅力でもあるのでその魅力をもっと発信して宣伝して行く部分を道を作る分からふっていただくというお金の使い方もあるんじゃないかなと思います。

神谷 以前南アルプス市長と話したときに南アルプス市の職員が全員順番で北岳に登るのだという話を聞いて感動した覚えがあります。学校登山で地域の子供が登るのもすごく大切ですし、市役所の職員もぜひ登ってほしいと思いますし、地域の方も登ってほしいと思います。登山は特殊な趣味ですが、地域全体の南アルプスという財産を糧に生きて行く上であればぜひ一度登ってほしいと思いました。登山者は遠くから来てピュッと帰ってしまうのだが、地元の人たちが南アルプス一回でもいいから登ってほしい。ガソリンスタンドのお兄ちゃん、コンビニのバイトの高校生が北岳に登ったことがある。こんなことがあったら登山者にとってはそうそうあることではない。南アルプス 3 県 10 市町村の人が行くだけで 50 万人くらいにはなるのではないですか？やはり地元の山を知ることがこれからすごく重要なことになるかと思いました。

塩沢 ありがとうございます。本日は南アルプス国立公園 50 周年記念事業、南アルプスユネスコエコパーク元年としてこの会を開かせていただきました。考えてみますと島国で山国である日本は同緯度からみてもこんなに豊かな自然があるところはないと思います。日本ひとつだけでも世界遺産になれるようなところだと思います。その中でそれを代表するような中部山岳地帯に住んでいられることを幸せに思います。そして今まで南北中央アルプスの先人たちが残してくれた、貴重な自然環境や文化を大切に、地元、山小屋、利用者、行政がそれぞれの役割を果たしながら、本日を契機に改めて考え、次の世代の子供達に誇れるように「受け継ぎ歩む」私達でありたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

以上

10市町村長懇話会記録（関連事業） 1/9

長衛祭・南アルプス国立公園指定 50 周年記念関係 10 市町村長懇話会

- ・開催日時 平成 26 年 6 月 28 日（土）14:30～16:00
- ・場 所 大平山荘（南アルプス林道沿い）
- ・出席者
長野県：白鳥市長、飯田市長、富士見町長、大鹿村長
山梨県：南アルプス市長、韮崎市副市長、北杜市産業観光部次長
静岡県：静岡市副市長、川根本町副町長
環境省：関東地方環境事務所長
（進行：商工観光部観光課・高遠町産業振興課）（案内：世界自然遺産登録推進室）

- ① 山岳観光について
- ② 自然保護について
- ③ 登山道整備について
- ④ その他

〔進行〕（原部長）

長衛祭への参加お疲れ様でした。また遠路より南アルプス北沢峠までお越しいただきありがとうございました。南アルプス国立公園指定 50 周年を記念して関係 10 市町村の首長にお集まりいただき、懇話会を開催させていただきました。進行の伊那市商工観光部の原と申します。会の進め方ですが、今回この会を提案した伊那市の白鳥市長が座長で進めさせていただきたいがいかがでしょうか。

（異議なし：全員賛同）座長席に移動

〔座長あいさつ〕（伊那市長）

南アルプス 3 県 10 市町村の首長の皆さん、代理も含め公務多忙の折にも関わらず、この大平山荘にお集まりいただき感謝申し上げます。これからの南アルプスのあり方について議論や情報共有ができたらとこの会を提案させていただきました。この山荘であるが、長衛翁のご息が造ったもので、こういった山荘で話しが出来るということが有意義なものと思う。南アルプスも国立公園に指定されて 50 年、ジオパーク、ユネスコエコパークもあり、世界自然遺産登録に向けての活動も活発になってきている。私も 40 年間登山をする中で、多くの課題がリュックサックの中に入れたままになっている。

それは、①登山道整備、②日本鹿による食害対策、③ストック先端へのゴムキャップ装着、④自然保護、⑤トイレ問題、⑥登山者のマナー等である。本日は、環境省の所長さんにもご同席いただいているので、そういった面からのご助言をいただきたい。なかなか難しい問題も沢山あるが、一つ一つ解決していき、一緒になって地域振興をやっていききたいと思う。

進行：・座長あいさつの中にもあったが、環境省の高橋所長さんにも同席いただいている。

- ・自己紹介は行はないので、発言の際に一言添えていただきたい。
- ・お手元の資料のとおり 3 つのテーマで進めていただきたい。

10市町村長懇話会記録（関連事業）2/9

①山岳観光について

座長：・まず始めに「山岳観光」についてご意見をいただきたい。

- ・ここで決まったことが全てではないので、ざっくばらんな話しをしてほしい。
- ・3県で境界を有している中で、それぞれの中で「こんなことをやっているんだ」、「こんなことをしたいんだ」等の思いをお知らせいただきたい。

北杜市：・市長が公務のため、先ほどの長衛祭までで失礼させていただき、代理で参加した。

- ・観光産業部という立場でお話しさせていただきたい。
- ・今、「観光」と「ツーリズム」という言葉が気になっている。
- ・「観光」というのは、40年前、20年前と今とはだいぶ違ってきている気がする。
- ・今、「ツーリズム」というしっかりした言葉があり、そこには色んな体験をしていく要素が含まれているように思う。今日の「長衛祭」のような、いろんな体験・体感が出来るような場というのは非常に貴重だと思う。

座長：・「観光」という言葉は昔から使っているが、「ツーリズム」という言葉もあるというご意見をいただいた。私もまさにそう思っている。

南アルプス市長：・まさに私達が今から南アルプスエコパークを含めてやっていくことを「山岳観光」という言葉で言うと誤解されるかもしれない。

- ・皆それぞれの感覚で「山岳観光」になるかと思う。
- ・人と自然が共生するエコパークを目指し、自然を学ぶエリアとしていかなければならない。
- ・北杜市さんのご意見のとおり、何か新しい言葉を探しながら合致する南アルプス山脈を取り巻く、エコパークの中でお金を儲けるとか、遊興と観光とは全然違うという言葉も明確にしていくことも大事かと日頃思っている。
- ・自然を学ぼうと来る人は皆自然を大切にし、自然の厳しさを勉強する。それも「観光」に入るのであれば、「観光」とは分けて新しい言葉や概念をつくっていくことも大事と思う。

座長：・いいお話しを出していただいた。私たちがいろんな人に広げていく中で、自然の大切さ、又来たいぞと思うような情報発信の拠点となるように、「観光」という名前から違うものに少し変えていったらというご提言である。

- ・大鹿村さん、大鹿歌舞伎から始まって、いろんなお客さんがおみえになると思うし、小渋川の向こうに赤石岳が見えて、そんな中で「観光」というところを少しお話しいただきたい。

大鹿村長：・正直に言うと「観光」ということが自分の頭の中にピンとこないのが現状。

- ・怒られるかもしれないが、昔よくそれしかないからそれにしようという意味合いの「でもしか」という言葉があったが、その言葉のとおりと思っている。そんな後向きの姿勢でお客さんに来ていただいて、経済活動やそういった向きの言葉としては気にいらないので、「観光」という言葉はあまり使わない。
- ・南アルプスの山岳観光にすれば、今回はジオパーク、エコパーク、世界自然遺産を目指すという中で必要なんであろうが、いわゆる経済的に膨らんでいく方向にもつ

10市町村長懇話会記録（関連事業） 3/9

ていくのはどうかと、気持ち的には思っている。

- ・ただ正直言って、座長さんの言われたとおり赤石岳へは、大西公園から鷲の谷の向
こにパーンと見える素晴らしい景観の中で、大鹿から真っ直ぐに登りたいという人
は沢山入るが、危険な登山道なので推奨はしていない。何かしようという気持ちは
あるが、大勢の方に行かれても困るのが現状である。

座長：・どうも山岳に「観光」の2文字をつけるのは、一考二考が必要だという雰囲気であ
り、私も同感である。

- ・ただ、地域振興の中では山岳を含めた中で経済効果をもたらすことは大事である。
- ・こうしたことを踏まえ、「観光」以外の文字で表すのも、一つかなとは思う。
- ・静岡市さんは0メートルの海から3,773メートルの富士山までであるが、そんな中で
山の活かし方、富士山はもちろん、南アルプスについての思いがあったら伺いたい。

静岡市副市長：・今日この大平山荘まで車に載せていただいたが、あのアプローチの林道が
非常に状況が良く、街からも短い時間でこれて非常にうらやましく思う。静岡市側
はアプローチが長く非舗装なため、非常にそこで難渋する状況である

- ・エコパークになっても、自然を守りながら地域経済、地域社会の発展につなげてい
きたいが、長野県側、山梨県側と比べて条件が異なるので課題も多く、難しい問題
と思っている。
- ・井川地域では、ここ数年地元の皆さんがエコツーリズムでいろいろな企画や活動を
一生懸命行っている。今回エコパークに指定登録されたので、山梨、長野両県と連
携した取り組みを今後やっていかなければと考えている。

②自然保護について

座長：・確かに山梨・長野に比べるとアプローチが非常に長いのが静岡だと思うが、別なア
プローチを探しながら展開するのも一つかと思う。

- ・次のテーマ「自然保護」に移りたい。
- ・北海道から九州まで、イノシシ、ニホン鹿が大変な状況になっている。この地域に
おいては、「食害対策協議会」を設けており、かなり先進的な取り組みを行っている
が、いっこうに減らない。先ほども鹿の声を聞いた。
- ・トイレの問題だが、合併浄化槽は大変お金がかかる。浸透式も若干残っている。今
ある環境を後世に残すためには、トイレ問題は重要な課題。
- ・高山植物の保護だが、ストックでかなり痛めつけている現状である。自然保護の姿
も昔とはずいぶん変わってきている。
- ・ただ、登山者の意識も高くなってきており、ゴミはほとんど落ちていない。山小屋
の前にゴミを捨てていく時代もあったが、そうした物も段々に片付けられ、最近で
は本当にきれいな山になってきている。
- ・ゴミ以外の自然保護の在り方について、これから求められるようになると思う。こ
のことにについて話しを進めていきたいが、環境省の意見を伺えないか。

環境省 高橋所長：・本日のメンバーに入らなかったが、皆様の生の貴重なご意見が聞け

10市町村長懇話会記録（関連事業）4/9

ると思い、急遽オブザーバーで参加させていただいた。

- ・鹿の問題だが、環境省の取り組みが十分でなかったこともあって、この地域の皆さんは本当に先駆的に取り組んでいただいている。その成果もあり、他地区に比べて対策が進んでいる。それでも現状を維持するくらいであるので、この問題は非常に難しい問題と思っている。
- ・今国会において「鳥獣保護法」の大幅な改正があり、鹿を含めた鳥獣の個体数の管理体制が強化された。この法律が実効性のあるものになるよう皆様としっかり連携していくことが重要である。
- ・また、地域を決めて、計画を立て、そこへ来られる方から一定の料金を徴収して、自然保護に役立てていけるようにもなった。法律がなくても、富士山のように独自で徴収することもできるが、そういう取り組みが進みやすくなった法律である。
- ・そういった意味では、自然保護の分野では重要な法律ができた画期的な国会であった。
- ・こうした制度や活用も視野に入れながら、財源の問題もあるが国と地域とが協力し、進んだ取り組みが出来るような、地域の自発的な促進がされることに期待している。

座長：・ありがとうございました。自然保護の姿、あり方、関わり方についても時代がどんどん変わってきている。そうした意味においても、これからの 50 年、環境省、林野庁、我々が一緒になってやっていく時代に完璧に入っていると思う。財源確保の際には、ここにいる首長さん方がパーっと動くので、一緒になってお願いしたい。

・飯田市長さんは山登りをされていたということで、非常に頼もしく思うが。

飯田市長：・私が登っていたのは 30 年も前のことで、東京で銀行勤務だった頃の話である。今で言う「山ガール」の前で、かつこ悪いことがないよう甲斐駒に登ったこともあった。30 年ぶりに来て、山小屋はリニューアルされていたが、雰囲気は当時と変わらなく嬉しく思った。

- ・自然保護は非常に難しい問題。昔のように林業が業として成り立っていた頃は、皆伐も行われ、自然と人間界の緩衝地帯も確保されていた。現在は境もあいまいになっているので、鳥獣による被害も出てきている。
- ・飯田市では市政懇談会で地区を回ると、必ずこの問題が出てくる。
- ・これといった対応策がない中、伊那市長さんに勧められた「猿の檻」が予想以上の効果があるらしい。今は山の上に登っているが、果樹の実る季節に様子を見てみると正直効果は分からない。
- ・現場ではいろいろな試行錯誤をしている。
- ・鹿の問題だが、何かいい知恵はないものか。環境省でいいアドバイスがあればいただきたいと思っている。

座長：・ありがとうございました。川根さんいかがですか。自然保護の関係で。

川根本町副町長：・自然保護関係では、鹿について話したい。

- ・鹿が増えすぎてカモシカが里に追いやられる、逆転現象が起きている。
- ・日本鹿の餌が豊富になっているのが一つの要因。林道開設でも、法面に牧草をまく

10市町村長懇話会記録（関連事業） 5/9

ようになり、それを食べた鹿が更に元気になり、どんどん子を産んでいる気がする。

- ・ダムの法面保護にも牧草が捲かれている。そこに鹿が群れている。
- ・人間が原因を作ったと感じる。総合的に皆で考えた上で制御する方法を考えるべき。

座長：・ありがとうございました。南アルプスだけでなく、鹿の被害というのは、人間が高山植物を荒らすというレベルではない。大変なことになっている。

- ・テレビのニュースでは「かわいい」と報道される。認識が違う。
- ・先日、八ヶ岳で子供たちが、鹿の糞に含まれる「クリプトストロジウム」という菌が原因で集団下痢を発症した。これは塩素では死滅しない。高山植物への食害の他にも、このような細菌をまき散らしている現状も念頭に入れて、適正な個体調整していかなければいけない。これも自然保護の一つの関わりだと思う。
- ・自然保護については「鹿」を中心に、今回南アルプス全体に発信しようとしている。
- ・また、ストックのカバー装着のことも皆でやることでいかがか。
- ・ビロードモウズイカ等の色んな外来植物がどんどん入ってきている。その対策もやっていかなければならない。
- ・自然保護については、大変大きなテーマであるので、今後も10市町村連携して取り組むべき大変重要なものと思っている。

③登山道整備について

座長：・3番目の話しに入りたい。私も長年登山をしているが、登山道整備についていくつかの疑問がある。整備は誰がやるのか。お金はどうするか。国立公園内であったり、国定公園や県立公園内の場合もある。

- ・案外、今まで積み残してキャリーオーバーしてきた重要なテーマだと思うので、意見をお伺いし、今後どうしたらいいかというスタートにしたいので、ざっくばらんなお話しを聞かせていただきたい。
- ・ちなみにこの地域では、山梨県側については山梨で、長野県側については長野県のそれぞれの市町村がやっているのと、山小屋の皆さんがやっているのがある。この大平から仙丈に行く藪沢ルートは大平山荘の竹澤さんが、市の職員と一緒にルートを整備し、安全な登山道を確保している。全部「手弁当」である。
- ・今までいろんな論議があったと思う。難しいテーマだと思うが、韮崎市さんではいかがか。

韮崎市副市長：・この林道（南ア林道）のような大きな県道の様なものは県の費用でしてくれるが、登山道については、座長さんの言われたとおり、地元の山岳会を中心にボランティア的に整備している。

- ・山岳会とその仲間、市の職員等々でその都度。山開きの後は定期的に。破損箇所があった場合は、その都度緊急的に行っている。
- ・案内看板については、県の補助をいただきながら随時行い、登山者が安全に登山ができるよう整備している。

座長：・ありがとうございました。案内看板の話しが出たので検討したいが、その前に登山

10市町村長懇話会記録（関連事業）6/9

道整備についてどんな状況か、どのような対応をしているのか伺いたい。富士見町さん、入笠山周辺はどのような形でやっているのか、状況を教えていただきたい。

富士見町長：・入笠山周辺については、近年人気が出てきおり、今年もまた1割くらい増えて10万人を突破すると予測している。

- ・私どもとしては、「南アルプスエコパーク＝観光で活性化・地域発展を目指す」というのが町の方針の一つとなっている。
- ・従って、山に登る人たちがいかに満足するかというのは町の責任であると自覚し、きちんと予算を取っている。
- ・単に危険をなくすとか綺麗にするだけでなく、見栄えも大事。
- ・雨が降ったら川になり土砂で荒れてしまう歩道は、危険箇所除去のため舗装している。
- ・老若男女、障害を持たれた方等、全てが満足し楽しんでいただけるかというのは、町の全面責任として予算を付けている。
- ・ユネスコエコパーク、ジオパークの仲間に入れていただいた。非常に話題となり、マスコミにも取り上げていただき、かなりの宣伝効果があった。その収入の中から予算をはたいて事業を行っている現状である。

座長：・ありがとうございます。富士見町には入笠山、釜無山等、気軽に行ける山があり、そうしたところに町費をつぎ込んでいるというお話がありました。

- ・一方で、3千メートルを超える山が広範囲にわたっており、それぞれの自治体に及ぶ範囲も広大である。そんな中で、入山料という話題も出てきている。登山道整備のために一定規模のお金を登山者からいただいてもいいのではと思っている。
- ・山小屋や山岳会や自治体がほぼボランティアに近い状態で行っているし、資機材についても市町村が出しているケースが多いと思う。そうしたことに補助をするため、山登りを享受している皆さんから協力費的なものをいただく時代になってきている気がするが、皆さんどうお考えか。南アルプス市さんはどうか。

南アルプス市長：・私も、座長さんの言われるとおり、そういった時代に入ってきていると思う。

- ・今回、エコパークに登録されたことにより、この全域の10市町村の首長さんと協議するのは、3千メートル級の登山道をどう整備するかということがあるかと思う。
- ・富士見町さんの言われたことは当然考えなければいけないことである。登山者の価値感も多様化している中、いろんなニーズがあるので、いろんなソフト事業を行って南アルプスや周辺に来られる方の選択肢が沢山あることが必要。
- ・なんでも一律というのではなくて、財源を探し、登山道を整備し、このすばらしい道を歩かせていただくという人たちがお金を払うとか、皆で協議し整備していかなければならないと思う。
- ・うちでは新任職員29名を櫛形山に5～6人ずつで登らせ、昨日体験発表をさせた。若い人はすごいなと思った。登山道を整備するところがあればすればいいが、手を着けないで自然のままだいいという考えの人もある。

10市町村長懇話会記録（関連事業） 7/9

- ・自然のままで安全だけ確保できればいいとか、お年寄りや障害をお持ちの方でも安心して登れるよう整備するのは必要だけれど、周りの自然は護ろうという意見もあり、多様化している。
- ・今回のエコパーク登録を契機に、登山道整備をきちっと考え、国でやっていただける所は国で、地域でやらなければいけない所は地域でやる。いずれにしても財源なくしては出来ないの、ボランティア頼みではなく、山に入る人がお金を出すのが原則だと思う。出たくない人は来てもらわなくても結構だと私は思っている。
- ・北ア、中ア、南アを比較したとき、北アや中アのようにロープウェイでどんどん上がって行けるが、それが無いところが南アの特異性であり、素晴らしさでもある。
- ・なんでもつくればいいというものではない、絶対そうすべきではない。どうあるべきか理念を確立したうえで、登山道はどうあるべきかを考え、それから整備の議論をする。
- ・不自由であっても自然が護られることもあるし、そのところを議論する中で、お金はきちっと取って、各市町村にあった整備をしていく、そのためにも入山者からお金を取るという時代が来ていると私は思っている。

座長：・他にはどうか。登山道整備というのはどこの市町村でも大変苦労している問題である。南アルプスに関しては、10市町村が世界自然遺産登録に向けて動き出した中で、ジオ・エコの幹事会や部会も立ち上がっているの、是非その中でも揉んでいっていただき、共通として早く手を着けていかなければいけないと思っているので、その様に提案させていただいてよいか？
(異議なし)

座長：・財源についても大変重要なテーマであるので、今回のことを踏まえて世界遺産の協議会の中でも大事なテーマとして取り組んでいきたいと思う。

・それからもう一つ「案内看板」の話がある。これも市町村によって設置されており不揃いである。県によってもまた違う。大きさ・標記内容・色・高さ等それぞれ違っている。南アルプスの山域に於いては、統一すべきだと思っており、これについても是非協議会の中で検討すべきと思っている。ハングル、中国語、が入っていたり、日本語と英語のみのものとか、最近ではQRコードの入ったものまである。見落としがないようにするのがサインシステムというものの大事なことと思うので、このことについても協議会の中で大事なテーマとして扱っていききたいがよろしいか？
(異議なし)

④その他

座長：・4番の「その他」に入るが、今まで話した以外のことで何か他にあるか。いろいろなご意見をいただきたいと思う。

南アルプス市長：・ユネスコエコパークになって、こんなに10市町村長が仲良く協議できる場は、多分ないだろうと思っていて、今回白鳥市長さんをはじめ、「ストックキ

10市町村長懇話会記録（関連事業）8/9

キャンプをやる」とか「登山者のマナー」とか言うんですが、私が市長となって一番やろうとしているのは、昔仕事でアメリカに行ったときに、ナショナルパークの入り口にレンジャーの事務所があり、教育を受けた。「これからはガラガラ蛇のエリア、人間のエリアではない。あんたは入れてもらったんだよ。」と言われた記憶がある。要するに何が今言いたいのかというと「あなたがガラガラ蛇と行き会ったとき、棒でどけたら、あなた処罰されますよ。あなたが迂回しなさい。」と言われた。例えばストックキャンプは、全然悪気はなくて、ただ登りやすいので、岩場などでは外しているのではないかと思う。だからきちんと教えて、教えを守らず違反した人には指摘し指導するということ。日本においてはソフトの事業が欠けているように思う。

- ・南アルプスを取り巻く中で、いろんな入り口があるけれど、この協議会で決めてマナーを教えるということである。
- ・教えるということとは何か、知っていただき、理解していただき、そして自然を守っていただくということ。教えなくして何をやれというのか。そんなことを我々も日本人として学んでいくべきじゃあないかと思う。そんなことを提案したい。

座長：・貴重なご意見ありがとうございます。他にはどうか？飯田市長さんお願いしたい。

飯田市長：・これからの南アルプスをどうあるべきか考えた時に、人口減少・少子高齢化の中、南アルプスの麓の中山間地域の生活文化をどうやって護っていくかが大変重要な課題と思っている。

- ・この地域の文化性というものは高く評価されていると思う。大鹿村さんの歌舞伎、当市の大槻祭りもそう、昔ながらの 800 年以上の伝統を誇る生活文化だと思う。こうしたものを絶やさないようにするためには、中山間地域が継続可能な地域として、50 年後もしっかり護っていけるような南アルプスの地域にしていくのがすごく大事に思う。そのためにはどうしていったらいいか、10 市町村で真剣に考えていくべきだと思う。

座長：・ありがとうございます。そろそろ閉めたいと思うが、飯田市長さんから中山間地のご提言をいただいた。

- ・私たちは、人口減少という共通の課題に直面している。都会に人口が集中しているが、地方にきちんと人口があって、地方を支えていくというのが非常に大事に思っている。中山間がさびれていくのではなく、逆に今回のことを起爆剤として、この南アルプス周辺の地域が盛り上がっていく方向に向かっていきたいと思う。
- ・今日は短時間だったが、いろいろなお話しをしていただいた。このように南アルプスに首長さん方が集まって話しをするということは、おそらく初めてのことだと思う。こうしたことは非常に重要に思うので、必要に応じて場所やテーマを変えて話し合いたい。
- ・本日、いくつかの決定事項があった。このことは、ここにいる事務局でも、次の会議に持ち込みながら、協議会の中でも話しをしていきたいと思う。
- ・私の後ろに竹澤長衛さんの写真がある。この山小屋を作ったのが息子の重幸さん、

10市町村長懇話会記録（関連事業） 9/9

またその後を継いでいる今のご主人で孫の信幸さん、その小屋をお借りして10市町村長の懇話会ができ、いろいろな話しができたのは非常に有意義だった。

- ・いろいろな課題があるが、まず共有し、そして共有した課題は必ず解決に向け行動しよう。
- ・急遽出席いただいた高橋所長さん、ありがとうございました。最後に一言感想をいただきたい。

高橋所長：・重要なお話を聞くことが出来たことに感謝する。南アルプスというのは、レベルやポテンシャルの高い公園である。今日の会議を聞いていて再認識した。このような会議が開かれるようであれば、是非我々も参加させていただき、一緒に議論させていただければ、国立公園の管理という観点からもありがたく思う。いろいろな知恵をお借りしたい。

座長：・ありがとうございました。環境省さん、また地主の方にも声をかけていきたいと思う。

- ・本日の会議にあたり場所を提供いただいた、小屋の主「竹澤さん」より一言ご挨拶をいただきたい。

竹澤信幸：・本日はお忙しいにも関わらず、私共の山小屋を使っただき感謝します。

- ・先ほどから会議の様子を見させていただいたが、非常に有意義なお話をされた。後に向けての良い取り組みを継続してやっていただくよう切望します。今後ともよろしくお願いします。本日はご苦労様でした。

座長：・限られた時間の中での懇話会だったので、発言の長短はあったかもしれないが、次回にまたこんな会議ができればということを願い、「10市町村長懇話会」を閉じさせていただく。大変ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

〔事務局〕

座長、進行ありがとうございました。それぞれの自治体の実情を踏まえまして、また今後10市町村が勉強する新たな課題、提案をいただきました。大変貴重な時間であったと感じました。本当にありがとうございました。

以上